



校長室だより

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和4年12月15日
第35号

2学期のまとめの学習に取り組んでいます

校内を回ると、それぞれの学年・学級のペースで2学期のまとめの学習に取り組んでいる場面に遭遇します。

12日(月)は貴重な晴れの日でした。この日、あおぞら級は朝から凧(たこ)あげを楽しんでいました。学級の時間に各自が作った凧だそうです。グラウンドを駆け回る子供たちの歓声が心地よく響いていました。

1年生は、教室横廊下で図工の作品の鑑賞をしているところでした。友達の作品のよいところを見付けて言葉にするのも大事な学習ですね。

お隣の2年教室をのぞくと、生活科で施設見学(校外学習)をまとめた個人新聞の発表会を行っていました。ボードに貼り付けた新聞を指示棒で指しながら発表する様子が本格的でした。発表を真剣に聞く子たちの態度も立派でした。

4年生は図工の時間に描いたヘチマの絵を元に、ヘチマ学習のまとめの成果物を皆で製作しているところでした。本当は「わたしとヘチマ」のような大作に各自挑戦する予定でしたが時間がなく、ヘチマだけの絵を寄せ集めてのコーラージュ作品にするそうです。苦肉の策とはいえ、なかなかこれも楽しそうな学習のまとめだと思います。

3階の教室をのぞくと、ちょうどまとめのテスト問題に取り組んでいるところでした。写真は戸のガラス越しにこっそり撮影しました。

本校の通級指導についてお知らせします

本校では今年度、10名の児童が「ことばの教室」での通級指導を受けています。担当の佐藤博子先生は毎週火・木曜日だけの勤務のため、各自週1時間だけですが、会議室の学習スペースを使って個別の支援を受けながら学習をしています。佐藤先生の優しく受容的な雰囲気と個に応じた適切な支援のおかげで、本校の通級の子供たちは皆、いそいそと週1回の「ことばの教室」に通い、時間が終わると達成感ある表情で嬉しそうに元の教室に戻ります。

先月末に、佐藤先生と各学級担任、特別支援教育コーディネーターの根塚先生、校長、教頭との情報交換会を行いました。佐藤先生からは一人一人の子供について「真面目に取り組んでいる」「課題を全部やりきる」「細かい作業が好きなんだ」といった得意な面や成長が見られる面を報告してもらいました。その一方で、課題の見られる面や、また「目の動きのトレーニングが効果的です」「ノートのマス目(色や大きさ)によって書きにくさ、書きやすさがあるようです」「自信がなさそうですが1対1だとよく話せるようです」など、一人一人に応じた効果的な対応や支援についても教えてもらいました。これを受け、学級担任や校長、教頭からも、日頃見ている様子について話しました。このように、それぞれの情報を出し合うことで、一人一人の子供への理解が深まり、今後の指導・支援の方針についても共通理解を図ることができました。

関係する保護者の皆様には、個別懇談会の折に佐藤先生との個別懇談にも出席していただきました。ありがとうございました。お子さんが「ことばの教室」でどのような時間を過ごしているのか感じ取っていただけたかと思います。今後とも通級指導にご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。



学校薬剤師さんの大切な力 ～健康に気を付けたい今だからこそ～

小・中・高の各学校にはそれぞれ学校医と学校薬剤師がおられます。ただ、毎年健康診断をしてくださる学校医さんは子供たちにもなじみがあるのに対し、学校薬剤師さんはいったいどんな仕事をしているのだろう、と思う方も多いのではないのでしょうか。

学校薬剤師さんは、学校の環境衛生を健康的に保つため、定期的に検査し、必要な指導助言を行ってくださいます。また学校での医薬品類の管理についても必要に応じて指導助言をしてくださいます。薬局の薬剤師さんとは少しイメージが違い、学校の保健衛生のアドバイザーといった感じです。

14日(木)は環境衛生検査の日でした。本校学校薬剤師の瀧村朋子先生が校内の各所で照度や騒音、空気中の二酸化炭素濃度等を測定し、事後指導をしてくださいました。特にここ数年は、コロナ対策のため冬でも廊下の窓を開け、積極的に換気を行うことが求められています。二酸化炭素濃度を下げ、新鮮な酸素を取り入れるためにも換気は必要です。寒さが厳しい季節ですが、心して換気していきたいと思います。



シリーズ「教室におじゃまします」12/8(木)2年音楽科の巻

音楽大好きな2年生の子たちにとって、この日は特別な時間でした。コーレの出前授業として、2日後に演奏会を控えたプロの方によるミニコンサートがあったのです。オープニングは「愛の挨拶」(エルガー)。伸びやかに歌うような曲にぐっと引き込まれた子供たちでした。その後、しばらくはヴァイオリンとピアノ、それぞれの奏者による楽器紹介でした。ヴァイオリンの弦が元元は羊の腸からできていたこと(現在は金属)、弓は馬のしっぽを束ねてあることなどを教えていただきました。また一方のピアノは自分の楽器を持ち運ぶことができない代わりに、各会場のピアノとの出会いがあること、色と同じで全部の音を同時に弾くと(音が混ざると)いい音色にならないが、いくつかの音を組み合わせることで心地よい和音を作り出せることなども、



瀧崎明日香(ヴァイオリン)& 菊地裕介(ピアノ)ミニコンサート

<プログラム>

エルガー「愛の挨拶」

クライスラー「中国の太鼓」

ショパン「革命のエチュード」

クライスラー「美しきオスマリン」

サン・サーンス「序奏とロンド・カプリチオーソ」

分かりやすく教えていただきました。

瀧崎さんと菊地さんはフランスでいっしょに音楽を学んだ仲であることや、それぞれその楽器を始めることになったきっかけなども、演奏の合間に話してくださいました。子供たちは「きれいな音やいろいろな曲があってすてきだった」と感想を発表していました。



おまけの<ひとこと> 出前コンサートの後、お二人とは校長室でさらにお話をする時間がありました。ピアノの菊地さんはお母様がピアノ教室をしていたため小さい頃からピアノの音色に親しんでいたそうですが、小学校に入ってピアノを習うことになったときは、お母様のところではなく別の先生に習わせられたとのことでした。「実の親子では難しいですか」と聞くと、「もう絶対実の親子ではだめです」と断言されました。菊地さんご自身も小さい娘さんがおられるそうですが、私情が入りすぎてピアノの直接指導はできないだろうとのこと。「親にできるのは指導ではなく支援や助言ですね」と意味深長な一言をいただきました。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。